

学生から見た医療崩壊

兵庫医科大学 医学研究会

自己紹介

兵庫医科大学医学研究会とは

出来てから3年

部員数は5～10人(幽霊部員を合わせると30人ほど)

近くの系列大学「兵庫医療大学」の看護、薬学学生も参加(5人ほど)

活動の内容

→部員が興味を持ったもの「なんでも」

今までにやってきたこと

・先生にお願いしての勉強会（国試やCBTについて、心電図、病理など）

・解剖教室のご協力による、夏休みの人体解剖での標本作成・説明ビデオの作成、学祭での展示

・7月25・26日の日本教育学会でのポスター発表
などなど

学生から見た医療崩壊

兵庫医科大学 医学研究会

経緯

「今年の日本教育学会なにしよう？」

僻地医療・離島医療・災害医療・・・

→部員の一人(主婦)が、兵庫県丹波市「県立柏原病院の小児科を救う会」のついでの新聞記事を持ってきた。

→今年はこれをやろう！

学校の地域医療学特任教授、吉永先生に話を聞きに行く(週一で、柏原病院で勤務中)



「次の日曜地元の住民に向けての講演会があるから聞きにこない?」「いきます!」



講演会の時に和久先生に紹介してもらおう。そこで、「丹波医療再生ネットワーク」の勉強会の話聞く



勉強会に参加

和久先生とは

兵庫県立柏原病院で小児科勤務。
医療危機に直面して黙って去る医師が
多い中、初めて外の世界に向かって医
療危機を発信した。

今年の4～7月までに、参加したものの

- ・講演会2回
- ・「丹波医療再生ネットワーク」の勉強会4回
- ・吉永先生と、丹生さん（「県立柏原病院の小児科を守る会」代表）の対談を見学

現地調査で学んだこと
(他の方も話されると思うので簡潔に)

兵庫県立柏原病院の小児科が0になり
そう



母の会により、「県立柏原病院の小児
科を守る会」が立ち上がる



・「コンビニ受診を無くそう！」と住民に
呼びかけ

・小児科にお世話になったお子さんのい
る主婦による「寄せ書き」を病院内に展
示

吉永先生と、「県立柏原病院の小児科を守る会」代表の丹生さんとの対談

部員「守る会が活動をはじめられてから、救急外来の患者さんは劇的に減少したと聞いていますが、一番影響力があったものは何と思われますか？」

丹生さん「署名用紙の裏側に「コンビニ受診を控えませんか。」という趣旨の一文を添えたことが大きかったのかもしれないと考えています。」

丹上さんの言葉

「署名用紙を配り初めてすぐに効果が表れた」

「自分たちの地域の中核病院が医師不足で大変な状況になっているということを知る機会がなく、ギリギリの状況になって初めて知って活動を始めた」

「行政の側から各地域医療の現状を知らせる活動がはじまりつつあることは良い傾向だ」などなど

その結果・・・

→小児科は存続し、全国から、小児科
医が集まった！

しかし、整形外科など、他の科は、一向
に減少が収まらない

「丹波医療再生ネットワーク」

丹波地域の、医師、看護師、新聞記者、検査技師などが集まって、週に一回勉強会を開催

小児科を守る会の4ヶ月後から、活動開始

問題点

- ・3つの中核病院（柏原病院、篠山病院、赤十字病院）の連携が出来ていない
- ・認知度・危機感がまだ低い
 - 現地の若者
 - 柏原病院内の医師
 - 医師会

どうすればいい？

- ・協力する

- 柏原病院と赤十字病院の医師が集まって勉強会（企画中）

- 柏原病院内での院長も含めた勉強会（実行中）

- ・認知度を上げる

- 柏原病院のプロモーションビデオ作成（柏原病院が主体）

- Tシャツの作成（柏原病院が主体）

- 講演会の開催

それで・・・

学生としては何が出来るか？

・学生が何故地域医療に行かないのか聞いてみる

→アンケート調査

・学生に、地域医療・救急医療の現状についてもっと知らせよう

アンケート調査

地域医療に行く医師が少ない→地域
医療を志す医学生が少ない
→なぜか？

実際に細かく聞いてみよう、その中に
ヒントがあるかもしれない

* 紹介された先生が救急医療が専門と
いうこともあり、救急医療についても聞くこ
とに

1～6年の計648名
にアンケートを実施

全数調査

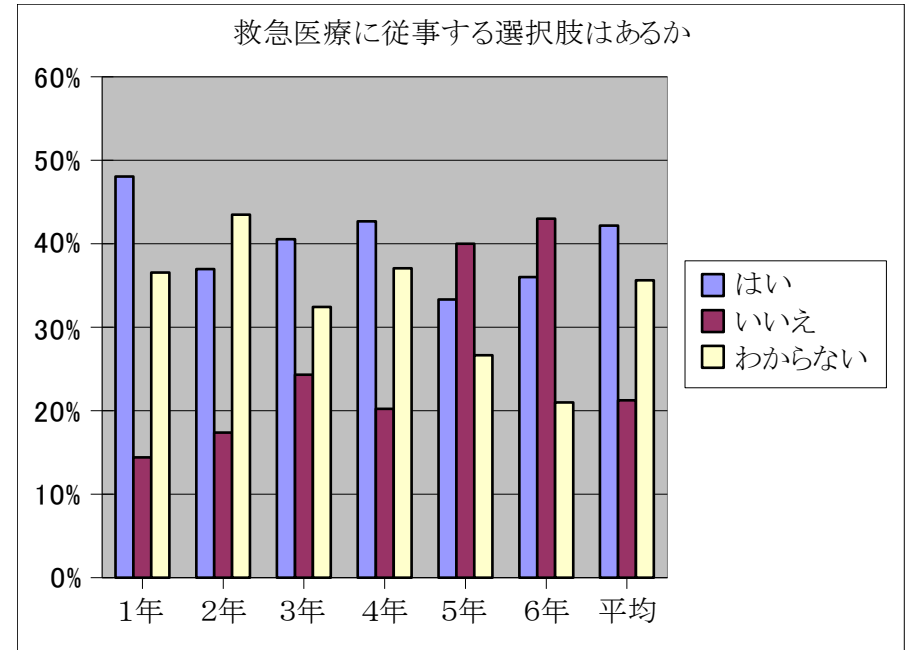
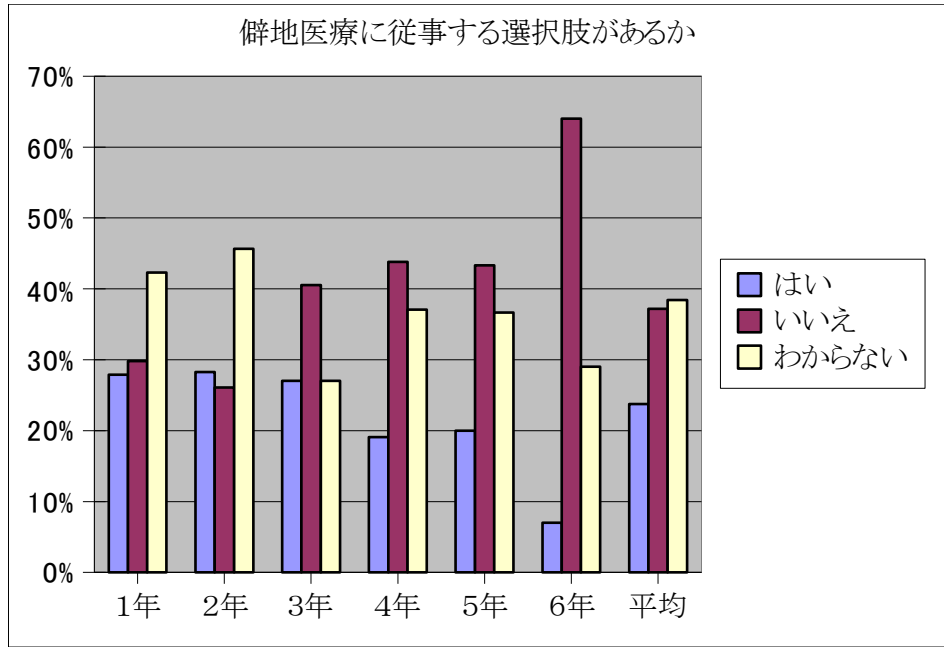
→320枚のアンケート
を回収
(回答率49%)

	解答人数	全人数	回答率
1年	104	113	92%
2年	46	110	42%
3年	37	94	39%
4年	89	111	80%
5年	30	95	32%
6年	14	125	11%
計	320	648	49%

アンケート作成前にグループインタビューを行い、
アンケートの項目を作る参考にした。

1. まず、行きたいと思うか

「あなたが、将来進路先を決める時に、僻地医療・救急医療は、選択肢の一つに入っていますか？」



→学年が上がるごとに、「いいえ」と答える人が増加した

(母比率の差の検定では、1～3年と4～6年の「いいえ」と答えた人の間で、有意な差があった(僻地: $p=0.01$, 救急: $p=0.03$))

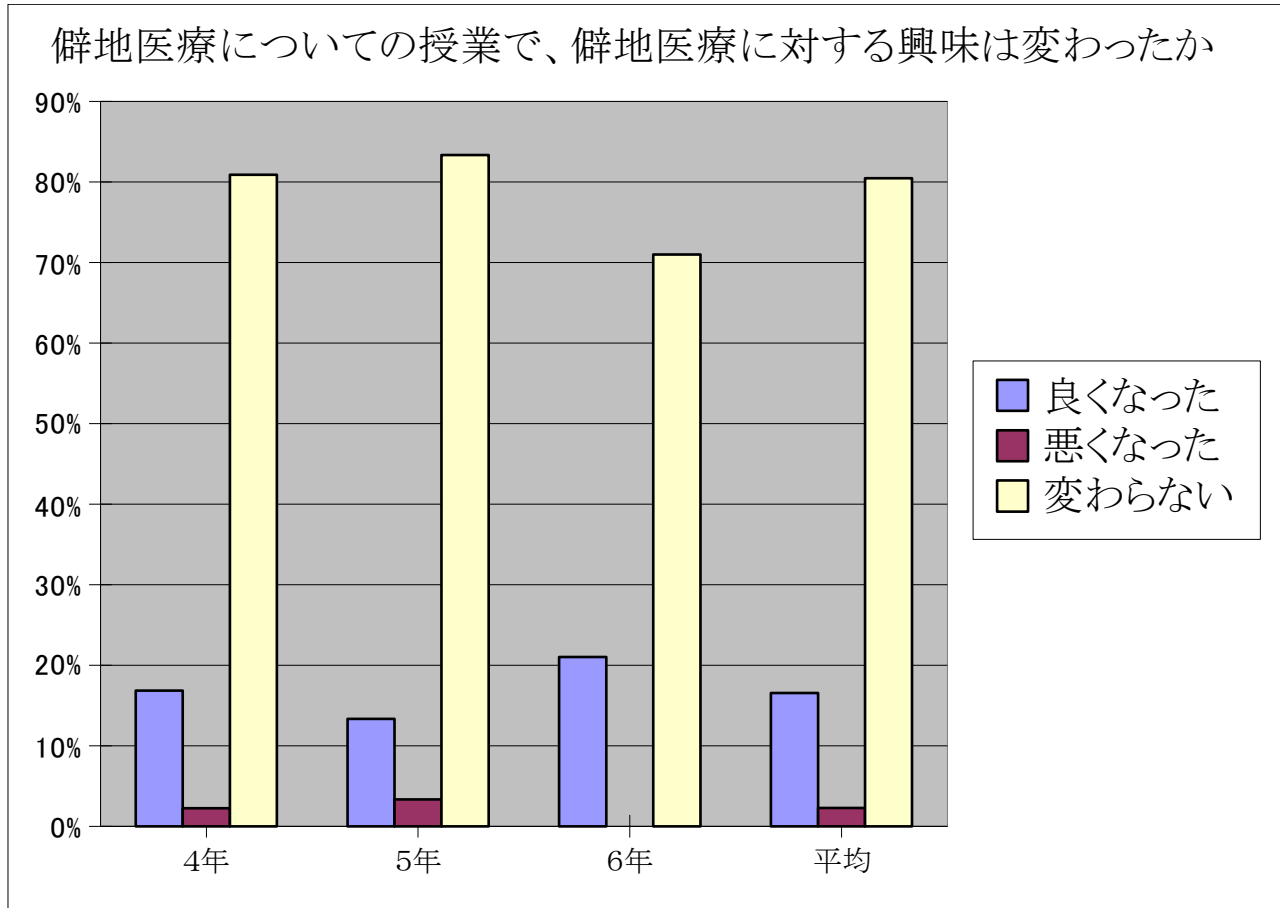
2. 授業や、ポリクリで、地域医療や、救急医療に対する興味は変わったか？

「僻地医療・救急医療の授業（ポリクリ）で、あなたの僻地・救急医療に対する興味は変わりましたか？」（4～6年生対象）

* 救急・僻地医療の授業は4年の一学期にあった。

（日本医学教育学会向け）

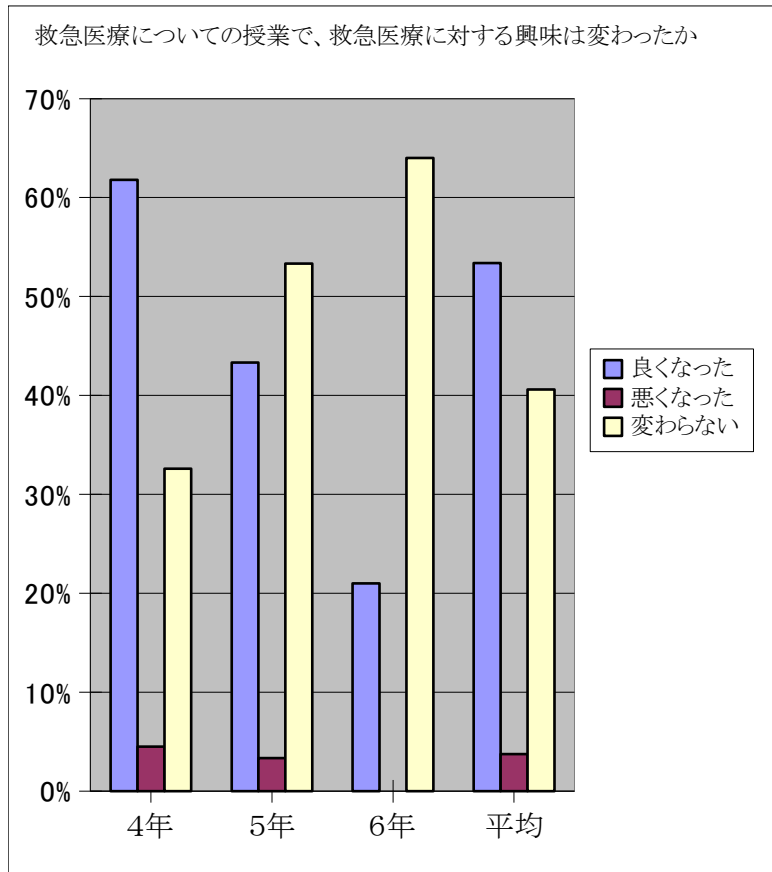
地域医療



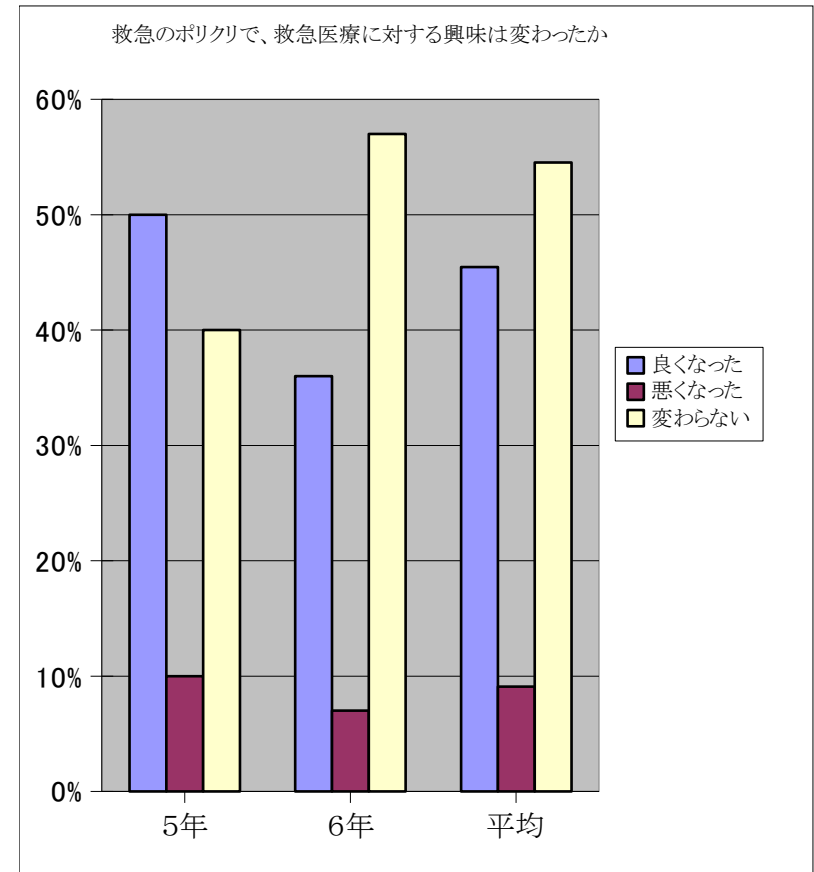
→「変わらない」が大多数だった(平均で8割)

救急医療

授業



ポリクリ



→ ほぼ半数が「良くなった」と答えた

3. 救急措置についての知識問題

1 自分の母が倒れた時に、行う措置について、順番の並び替え

a. 胸骨圧迫マッサージ(=心臓マッサージ)を行い、人工呼吸も行う。

b. 呼吸の確認と、脈の確認をする

c. 呼びかけて、反応を確認する

d. 周囲の人に、救急車を呼んでもらうと同時に、AEDを持ってきてもらう

正解→cdba

2AEDが手元に届いたときに、一番初めにすることは何か

a.脈を確認する

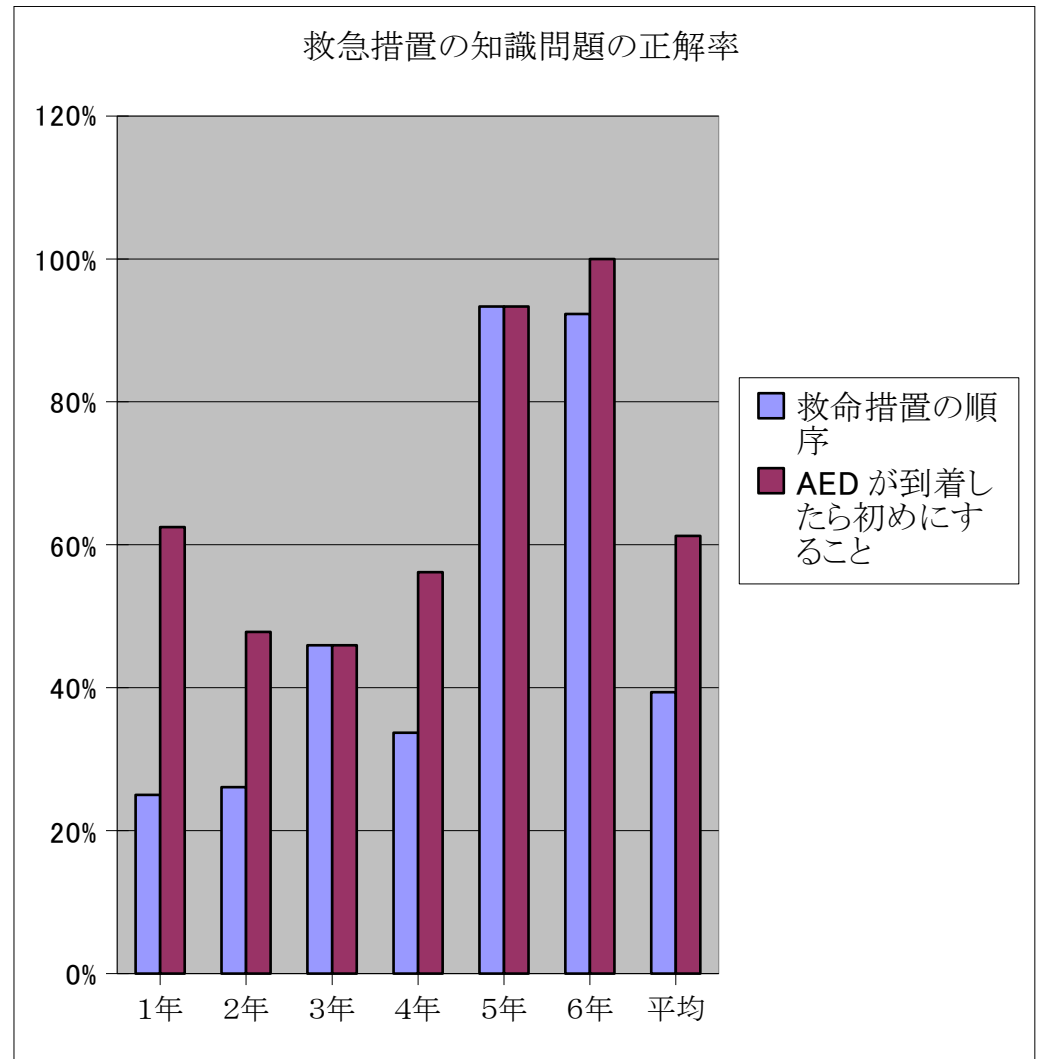
b.電極を張る

c.電源を入れる

正解→c

正答率

1・2番とも、1～4年生と、5・6年生との間で、大きく差があった
(母比率の差の検定で、1・2番とも有意な差が見られた
($p < 0.01$))



ここまでのまとめ

- ・僻地医療の授業では効果が見られなかったが、救急では授業・ポリクリ共に効果が見られた。

原因として考えられるもの

- ・授業時間

救急 >> 僻地

- ・自分の所に来てほしいという気持ち

僻地 → 公衆衛生の授業の一つ

救急 → 実際に救急をされている方が、授業をしている

救急の知識の問題

4年生から5年生の間で正答率に顕著な差が見られた。

→4年生の終わりにあるOSCI対策に効果があった。

以上より

地域医療の授業は、公衆衛生という
ユニットの沢山ある授業のうちの一つ
でしかない

→実際に地域医療に従事されてる方
を呼んできて、授業をやってもらう。

(現時点)教務課にこれを提案する文
章を作成中

「あなたが卒業して、進路先を選ぶときに、何を重要視しますか？」

グループインタビューにより絞り込んだ17項目（給料、田舎か都会か、訴訟リスクなど）について、「重要だと思う」「どちらともいえない」「重要だと思わない」の3段階評価で聞いた

この質問と、「あなたは僻地医療/救急医療に興味がありますか？」をあわせて分析した

17項目

給料の多さ

ポリクリでの印象

授業での印象

広範囲の分野を学べる事

特定の分野を、深く学べる事（研究も含む）

高度な、または最先端の医療が出来ること

働く場所が、都市部か、地方かということ

医師が少なくて困っている場所で働くこと

同世代の異性が身近にいるか（結婚相手と出会う機会の有無）

出来るだけ早く診療や、手術などをやらせてもらうこと

上司の指導が丁寧であること

勤務する病院での設備（CTの有無など）

自由時間の多さ（拘束時間の短さ）

訴訟のリスクが低いこと

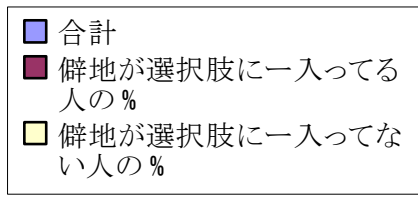
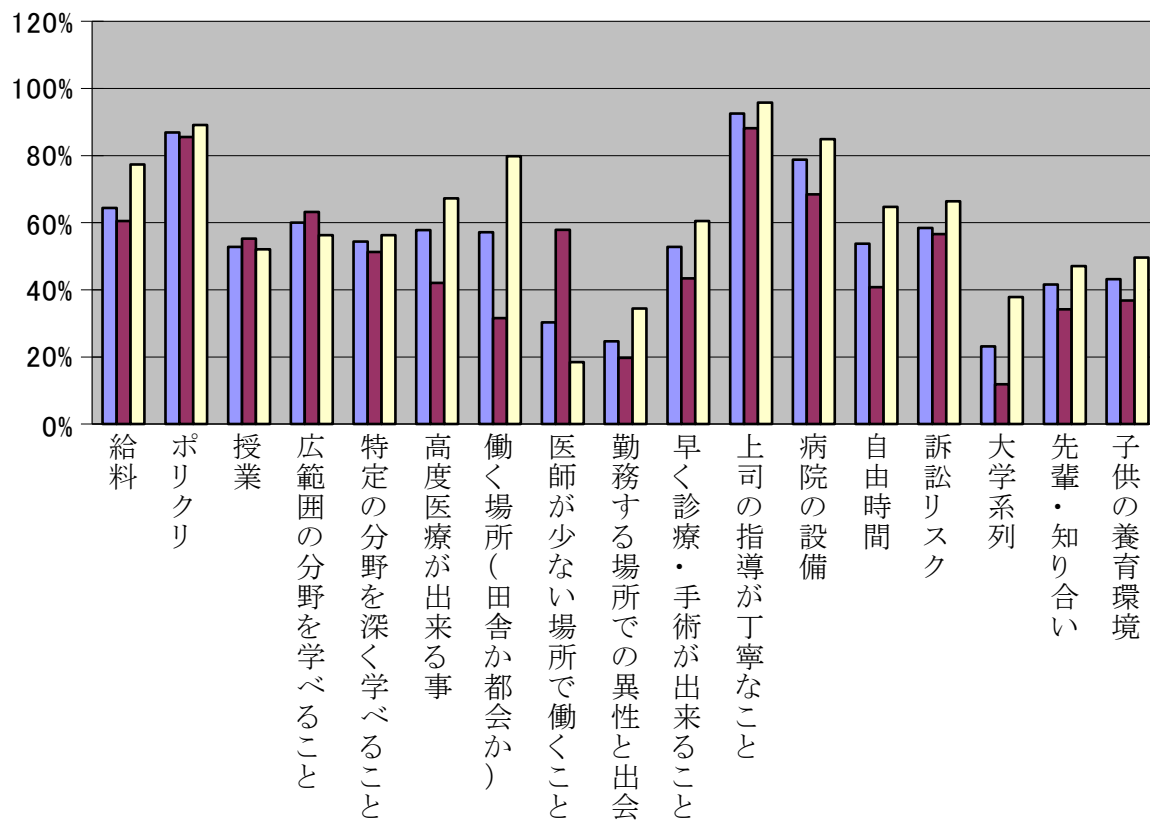
どの大学の系列か

先輩や知り合いがいること

働く地域で、子供の教育環境（塾など）が整っていること

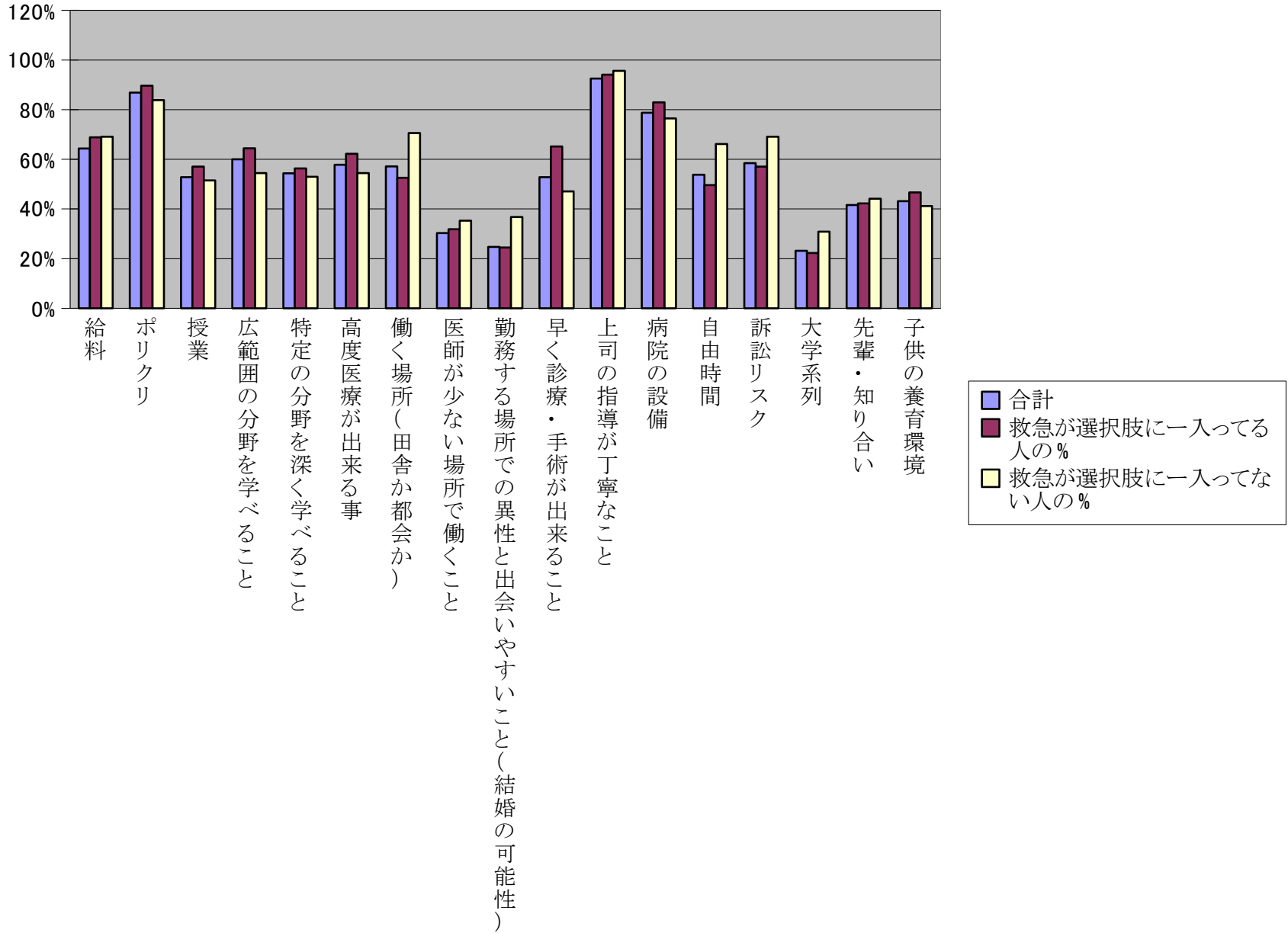
地域医療

「重要だと思う」と答えた%



救急医療

「重要だと思う」と答えた人の割合



初めての多変量解析

地域・僻地医療に行くか行かないかは、一つの理由ではなく、様々な理由が関わってくる。

多変量解析を行うことにより、それぞれの因子の、行くか行かないかについての、影響度合いを調べることが出来る。

参考図書

らくらく図解アンケート分析教室

Excelで学ぶ回帰分析入門

が、

多変量解析のうち数量化2類を行った所、判別的中率が75%を超えないといけないのが、60%しかなかった。

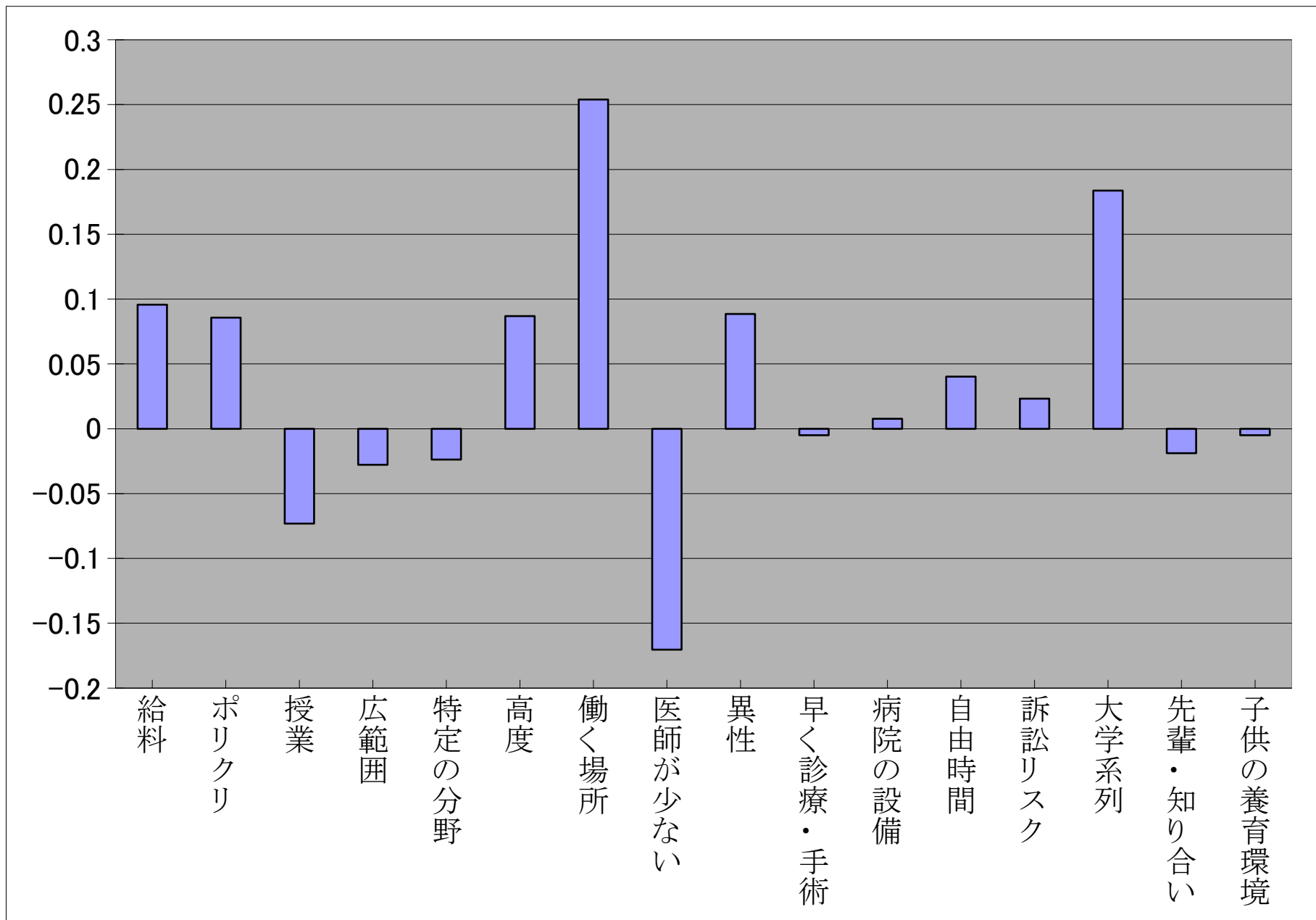
→「わからない」の選択肢を加えたので、分析が難しくなった。初めからSPSS・SASなどの統計の専門ソフトを使えばよかったかもしれない

なので、

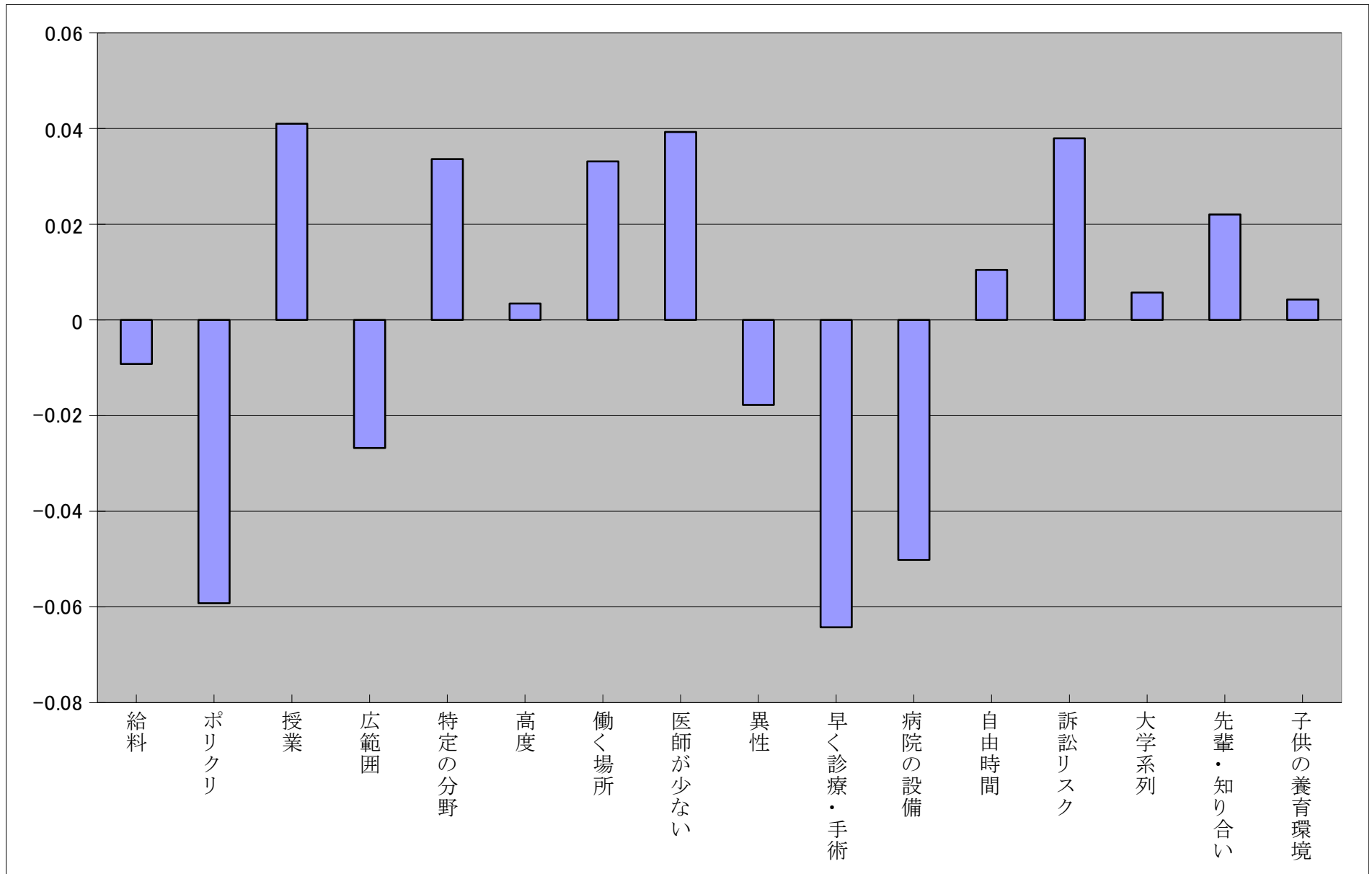
以下の発表は、統計学的には信頼性が低いです。

ただ、もちろん参考にはなります。

地域医療について、各因子の負の影響度



救急医療について、各因子の負の影響度



それで…

学生としては何が出来るか？

・学生が何故地域医療に行かないのか
聞いてみる

→アンケート調査

・学生に、**地域医療・救急医療の現状**
についてもっと知らせよう

学生に、地域医療・救急医療の現状についてもっと知らせよう

現時点の案

- ・アンケート結果、インタビュー内容をポスターにして、学校の掲示板に貼る（決定、作成中）
- ・兵庫県丹波市柏原町での病院・診療所・開業医などの見学（決定、8月13～14に一泊二日）
- ・学祭での、医療崩壊展

終わりに

夏休みの医学研究会のこれからの活動

- ・兵庫県丹波市柏原町の病院見学
- ・民医連系列の病院で実習
- ・人体解剖実習
- ・近くの市中病院で、CTの勉強会

医学研究会のHP

<http://www29.atwiki.jp/hmciken/>

検索エンジンで、「hmciken」で検索

今回のパワーポイントも、生データも掲載する予定です。

柏原の病院見学など、よかったら一緒に行きませんか？

これからも、兵庫医科大学医学
研究会をよろしくお願いします！

御清聴ありがとうございました！

兵庫医科大学 医学研究会